

今月のトピックス「カンキツのヤノネカイガラムシについて」

1 ヤノネカイガラムシとは

ヤノネカイガラムシはカンキツの重要な害虫のひとつです、カンキツ類にしか寄生しませんが、ユズ、カボス、スダチなどでは寄生しても発育しません。雌成虫の介殻は紫褐色～灰紫褐色、長さ 2.5～3.5mm で、形状は弓矢の矢の形をしており名前の由来となっています。雄幼虫・蛹の介殻は白色で細長く、長さ約 1.5 mm、主に葉裏に群れを作っています(写真 1)。雄成虫は翅を持ち、雌とは全く異なった形態をしています。



写真 1. 雌介殻(赤丸実線)と雄介殻(青丸点線)

2 カンキツでの被害について

ヤノネカイガラムシは葉、枝、果実に寄生して加害し、大きな被害を与えます。葉や枝での寄生密度が高くなると、葉とともに枝も枯れ、ひどい場合には樹全体を枯らすことがあります。果実に雌が寄生すると、定着した部分が着色不良、肥大阻害を起こし、いわゆる「ゴマミカン」となって商品価値が下がります。

3 ヤノネカイガラムシの発生生態

表. ヤノネカイガラムシ幼虫発生期(三重県)

世代	初発期	最盛期	終期
第 1 世代	5 月 上旬	6 月 中旬	7 月 下旬
第 2 世代	7 月 中旬	8 月 中旬	10 月 上旬
第 3 世代	9 月 中旬	10 月 中旬	11 月 中旬

ヤノネカイガラムシは年 3 回発生します(表)。越冬はほとんどが雌成虫で行われます。第 1 世代の発生時期は、その年の 2 月以降の気温によって大きく左右され、年により発生時期に 2 週間程度の差が見られることがあります。

孵化直後の 1 齢幼虫は微少で橙黄色、扁平、楕円形です(写真 2)。雌幼虫はしばらく歩行して、新葉や果実に単独寄生します(写真 3)。雄幼虫は母虫である雌介殻の近くに集団を作って定着します。



写真 2.1 1 齢幼虫(青丸点線)と母虫の雌介殻(赤丸実線)



写真 3. 果実上の雌

4 防除のポイント

ヤノネカイガラムシは他のカイガラムシに比べて被害が大きく、果実への寄生を防止するためにも、低密度での防除が必要です。第 2 世代以降は発生が長期間にわたるので、防除適期が絞られきりません。このため、越冬世代と第 1 世代を対象とした防除が効率的です。

越冬期の防除は第 1 世代の発生量を少なくするのに有効です。例えば、温州みかんでは冬期にマシン油剤を生息場所である葉裏に十分散布します。

第 1 世代の防除適期は、1 齢幼虫初発日から 35～40 日後で、幼虫発生最盛期となる 6 月中旬頃です。第 1 世代の発生時期は地域、気温によって大きく異なるので、幼虫の初発に注意して防除時期を決めることが大切です。なお、薬剤防除にあたっては、登録内容をよく確認して実施してください。

(写真は、農業研究所：鈴木賢氏提供)